第３回　中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

○　日　時

平成 25 年１月 24 日（木）午後３時～午後５時 15 分

○　場　所

中野市豊田支所２階大会議室

○　出席者

【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、上原一雄委員、下川昌平委員、宮入靖委員、山岸洋子委員、山屋秀夫委員、小林健一委員、小島佐和子委員、酒井美智子委員、髙木涼委員、伊藤勇委員、湯本美奈子委員、伊藤賢治委員、藤沢英範委員、青木幸子委員、北原新一委員、柴垣顕郎委員、古川今朝治委員、湯本一委員

【市】

横田教育次長、杉本学校教育課長補佐、大沢副主幹、千田主査

○　会議内容

１　開　会（15:00）

副会長：本日、始めるにあたりまして、出席状況でございますけれども、欠席というご連絡をいただいた方が４人でございます。今のところ 20 名でございます。今回は過半数に達しておりますので、始めさせていただきます。それでは小島会長の方から開会のご挨拶を申し上げまして、引き続き審議の方をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

２　会長あいさつ

会　長：年が明けました。今年もまた宜しくお願い致します。私、声が枯れてしまっているのですけれども先週末、二日間大学入試の方が会場を提供してやった関係で、二日間とも朝から夕方までずっと説明やいろいろ指示するといった時間を経験しまして、毎年、こんな感じではないのですけれども、随分、声を使ったようです。皆さん、お忙しい中、お集まりいただいてありがとうございます。まだ、寒いんですけれども、今日はなんとなく暖かくて空もきれいで気持ちいいなと思って運転してまいりました。宜しくお願い致します。それでは、着座して進めさせていただきます。今日の審議会の次第、その他資料がお手元に届いているかと思います。私も今、事務局の方で簡単な説明も

いただいたんですけれども、今日の会議の事項ということで、（1）、（2）とございます。そして４その他ということなんですが、今日、新しい年を迎えて初めての審議会で、どういう話をどんな内容で、どんな形式で形で進めていったらいいか、副会長ともある程度、年末に話をさせていただきました。一応、前回の審議会で我々に一任していただいた。私、いろんな意見を伺いましたので、今回、確認したらどうだということで、お示しする次第ということです。今日はですね、是非、重要なテーマ。それが個別に複数あるかとは思うんですけれども、それに直接入る前にどうしても中野市の学校の現状というか、小学校や中学校も含めてあるんですけれども、どのような学校経営をしているんだろうかということについて具体的に各校の校長先生、教頭先生が折角来ていただいているんで、現場を知りたいということで、是非、私の方からも実はお願いしました。そういうことで、今日の（1）の事項としては中野市における学校教育の現状についてということで、この会の委員で来ていただいている中野小、日野小そして平岡小の代表の先生方にそれぞれの学校のグランドデザインに基づいて、ご紹介とか現状報告をしていただけると、この後の話が具体的なイメージを持って広がるのではないかということ。そういう期待も込めて、今日、内容を取り上げて時間を用意しようということになりました。その他のところは、ご報告いただいた後、もし時間が残ればこの後どうするかということも含めて議論したいんですけれども、まずは三校の代表の先生方にお一人 15 分か 20 分ぐらいですかね。是非、先生方の学校の様子、どんな現状か。つまり今どうなっているのか、将来、どんなふうに学校はいくんだろうか。ひょっとしたら具体的な課題が目の前にあって、それをどうしているんだろうかということが、ちらっと含めながら紹介していただければと思います。宜しいでしょうか。それでは今日の会議の時間が５時までということですので、かなり大事なファーストステップというか踏み込みの一歩になると思うので、できるだけ時間をとって、このご報告の後、質疑応答、ご意見等、時間をとりたいと思いますので、宜しくお願い致します。それでは資料の確認をさせていただきたいのですが、事務局の方で説明をお願いできますか。お話を聞く前に。

３　会議事項

（1）中野市における学校教育の現状について（中野小・日野小・平岡小）

事務局：それではＡ４のコピーを左の上でホッチキスで止めたもの。中野小が一番上になったものがございます。こちらにつきましては、小学校、中学校の各校のグランドデザインをまとめたものでございます。１校１枚になっております。それと１枚ものでございますけれど、カラーの写真に印刷されたものが日野小学校のものが裏表で１枚、それと平岡小学校の方が同じくＡ４の裏表のものが１枚。グランドデザインの補足等でございますけれど、本日の資料としてございます。また冊子、カラーの厚い本でござ

いますけれども、中野市総合計画の基本構想と後期基本計画でございます。２、３枚まくっていただきますと、はじめにというもののページがございます。前の小田切市長の顔写真がついているものでございます。こちらにつきましては、平成 19 年に中野市総合計画・前期基本計画を策定しまして、ちょっと８行目ぐらいまで飛ぶんですけれども、平成 23 年度から６か年計画とした後期基本計画を策定したものでございます。中身につきましては１ページまくっていただきますと目次というページがございます。前半の部分が基本構想ということで、後ろの部分が後期基本計画ということで、構想と計画という両方がついているという形になります。基本構想の中では、ちょっと２行目になりますが、上か２行目の第６章地域が育て地域が守る教育と文化のまちづくり、31 から 32 ページということで、教育委員会関係の構想が載っております。また、後期基本計画の中では、すいません、もう１枚めくっていただいた右のページのところに第６章地域が育て地域が守る教育と文化のまちづくり 120 から 135 ページまでということで載ってございますので、また後で目を通していただければと思います。以上でございます。

会　長：ありがとうございました。それでは、中野小、日野小、平岡小とお願いしたいと思いますが、平岡小の先生、順番等はこれでよろしいですか。それでは、最初に中野小の方からお願い致します。

山屋委員：中野小学校の山屋秀夫と申します。それでは、私の方から最初に中野小学校の学校教育の全体構想、いわゆるグランドデザインですが、このグランドデザインを通して、今年度、中野小学校はどういう子どもの育ちを願って、日々教育活動にあたっているか、そんな点を説明させていただきたいと思いますが宜しくお願いします。中野小学校、本年度、870 名で新年度をスタートしまして、転出入が若干ございまして、現在、866 名と子どもたちを見守っていくということで職員が 61 名。大変大きな学校でございますが、日々、子どもたちと全職員が一枚岩になって向き合って教育活動にあたっております。グランドデザインは、その年度ごとに毎年、新しく更新しまして、その年度のその学校の教育活動の特徴、どんな取り組みをしているかというのを一目で見て分ってもらう。そんな趣旨で作成しています。中野小学校で前年度の教育活動を見返しまして、全職員が反省しまして、次年度に向けてこのグランドデザインを作成しております。大きく見ていただいてお分かりのように３つの列からなっておりますが、まず左側ですが、このような子どもの育ちを願っているということで、本年度、特に一番大事してきたことは、中野市教育委員会が目指す子ども像というものを具体的に示していただきました。中野小学校もこれを是非、これを大事にして、ここからスタートしていきたいということで、昨年度まではなかった訳ですが、左上にこの教育委員会の目指す子ども像、さらに中野小学校が含まれています南宮中学校区と連携した取り組みというものも、ここにしっかりと位置づけさせていただきました。その下がそれを受けて学校長の願い、それから各学年学級の目標ということになっています。

次に一番右側の列ですが、こんな子どもの育ちを願っていて、それでは実際に子どもたち、目の前にいる 866 名いる子どもたちは、どんな実態であるかということで職員で子どもたちの姿を見つめ直し、そこから洗い出してきた子どもたちの実態でありますが、大きく五つ出してあります。ずっと追ってご覧いただきたいと思いますが。こんな子どもたち、良さを持った子どもたちであるということ。それに対して、我々、教師集団として子どもたちが持っている良さをもっと引き伸ばしていくためにこんな取り組みをしていくということで、大きく四点挙げてありますが見ていただきたいと思います。さらにその両サイドの系列から、中野小学校は本年度こんな子どもを育てていく、具体的にこんな教育活動を通してということで、真ん中のラインをずっと見ていただきたいと思います。一番上が学校目標であります。かしこく、やさしく、たくましくと。これは本校で伝統的に引き継いでいる訳でありますが、さらにその下に輝かせよう三つの笑顔ということで、こんな子どもたちの笑顔が、日々の学校生活の中で、是非、引き出せるように生まれてくるようにということで、大事にしていこうということで挙げてあります。その下ですが、ではこの学校目標を引き出していくために具体的にどんな教育活動をしていくのがよいかということで、ずっとその系列になっておりますが、クロスカリキュラムの作成ということで、各教科、領域ごとに分かれているんですが、中野小学校ではそれぞれ教科、領域の重なり等についても大事に見ていこうということで取り組んでおります。一番真ん中ですが、一言でいうと、中野小学校で育てていきたい子どもですが、夢を持ち、つまずきながら乗り越え実現していく。新たな夢を持ち、意欲を持って学び続ける子どもを育てる。こんなところを全職員が大事に考えて取り組んでおります。前後しましたが、クロスカリキュラムの下ですが、このようなクロスカリキュラムの取り組みの中でも、特に日々の学校生活の中で、三点大事に子どもたちの姿を見ていこうということで、ひらく、みがく、つなぐというところを大事にしていきたいということで取り組んでおります。ひらくということについては、児童理解と指導力の向上ということで、教室を開き、児童のとらえを新たにしていく環境作り。語り合う授業研究会。こんなところから取り組んでいきたい。みがく、心豊かにする学習環境ということで、笑顔のあいさつ、無言清掃とあとみよそわか、花や緑の豊かな環境・掲示、廊下歩行、姉妹学級交流というような点からみがくというところを大事に取り組んでいこうとしています。左側ですがつなぐということですが、思いを込める集会活動、言葉を耕し想像を膨らめる全校読書、体と心を開く体育集会・音楽集会、思いやりの心を育む児童会と。こんな活動を通して先ほど申し上げた子どもの育ちを願っていきたいということで取り組んでおります。一番下ですが、このような全ての取り組みのさらに支えていく基盤としてですが、学校だけではなくてＰＴＡ、保護者、地域の皆さんとも是非、つながっていこうということで、あたたかな言葉がけの広がる学校・家庭・地域ということで大事に取り組んでいこうとしています。具体的には学校の方から学校だよりを出したり、ＰＴ

Ａ総会等いろんな場面で、このことを是非、ご理解いただいて協力いただきたいということで機会あるごとに、関係の皆さん方に学校の願いを伝えております。それとさらに今年度、またグランドデザインが新たな位置づけですが、その左側ですがプラスワンということでこれも中野市で大事にしております。全国的にも注目されていますが、「早寝・早起き・朝ごはん」と。基本的な生活習慣がやはりしっかりしてくることが、確かな子どもの育ちの基盤になってくるということで、当たり前といえば当たり前かも知れませんが、中野小学校、今年度、特にこれを大事にしていこうということで取り組んでおります。ざっと今、概要を述べた訳ですけれども、こんなような願いをもって本年度、本校は取り組んでおります。見返しなんですが、各学期ごとに、職員がこの目標から子どもたちに対する指導はどうであったかということで、それぞれ振り返る。あと地域、保護者の皆さんに対して二学期ですけれども、アンケートを通して、今年度の学校の取り組みについてご意見を聞かせていただくということで、今、時期的にちょうどそれが集約できて、平成 25 年度、来年度のグランドデザイン作成に向けて動き出しているところであります。ざっと申し上げましたが、こんなような形で中野小学校は本年度、子どもたちの育ちのために、全職員が取り組んでおります。以上でありますが、宜しくお願いします。

会　長：ありがとうございました。いかがでしょうか。今の説明に関してご質問とか、ご意見とかありましたら。中野小学校の保護者の方もひょっとしたらいらっしゃるのかも。どうぞ。

伊藤(勇)委員：中野中央幼稚園の伊藤でございます。ただいまお話を聞かせていただきながら、幼稚園の立場というよりも、私、長男がちょうど小学校六年で、ごやっかいになっていまして、保護者の立場としてお聞かせいただきまして、今年の運動会を拝見させていただきまして、運動会の時に小学校六年生が組み体操でしたか、あのようなことをやらせていただく中に、とても今、先生がおっしゃっておられた、つながりあうという子どもたちの育ちがとても見てとれた部分がありましたので、なるほどそういったものも今、小学校さんでとても良くやっていただけているんだなということを感じさせていただくということを、とても今思っておりましたが。その中で、学期ごとにこういったことを先生方で、反省をしながらこういったものを作ってくださっているという、学期ごとに行っているという理由といいますか、一年間というスパンではなくて、学期ごとで、今そういった短い期間でそういったことをなさっておられているということの理由を教えていただけると、とてもありがたいかなと思っております。

山屋委員：ありがとうございます。今、運動会のことを出していただいて、百回記念ということで、盛り上げていただいて。伊藤さんはじめ皆さんのお力添えで盛り上げることができてありがとうございます。学期ごとの意図でありますが、目の前の子どもたちは、絶えず変化してます。動いています。４月スタート時と今の１月の現在の子どもたちは全く変わってきています。体格的にもそうですが精神的にも、育ちの面でも。そん

な訳でやはり子どもたちの実態にあわせて、できるだけ短いというか、細かなスパンとか区切りの中で、絶えず子どもたちの姿を見返していかなければいけない。そうしないと、やっぱりこのグランドデザインが当初しっかりと作っても、そのままにすれば絵に描いた餅といいますか、飾りものになってしまう。やっぱりいつもここに振りかえって手元において、これを見返していかなければいけない。それを具体的に絶えず変化している子どもたちの姿から見返していかなければいけないし、あと、それに対して私たち職員もやはりどんどん変わっています。先生方の言葉なんかを聞いてますと、その子どもの捉えは日々変わっているんですね。あの子は初めこういうふうに見たけれども、違うんだ、こうなんだというふうに一人ひとりも変わってますし、学級集団としても大きな行事とかいろんな交流活動とか、学習を通して変わっている訳です。やはり、そこを絶えず見て、更新していかなければどんどん古いものになっていってしまうと。そんな願いや必要性から見返しをしていると。そういうことであります。宜しいでしょうか。

会　長：他にどなたか。どうぞ。

古川委員：交通安全の事業について、安協の皆さんが旗でやっている。安協の皆さんがいない時に自分たちだけの時に、どうなっているのか現実が見えないのだが。交通整理は誰もいないところで、実際、しっかり右、左とやっているかどうか。それを確認したい。

山屋委員：ありがとうございます。おっしゃるとおりです。今、古川さんがおっしゃるとおりで、子どもたちの本当の姿とか、特に交通安全とか安全面については、私たちがいない場所とかその場でいかに日頃の学びというかそれを生かしているのか。実は、今朝もある保護者の方から、先生、ＮＴＴの前の通りのところに１メートルぐらい雪があるんだけど、その上に二、三年の男の子３人が上って滑っていると。車道の方へ滑り落ちて、その上に車がきたらひかれてしまうので、すぐに注意してくださいということで、すごく温かい連絡をいただいたんです。本当におっしゃる通りですが、実態として、子どもたちの安全に対する意識は個人差がやっぱりありますし、いつも我々、教師がいない場で、交通のきまりを守ってやっているとは言い難い。

古川委員：学校教育が誰もいないところで自然に行動に出なければ価値がない。生徒が。それがこれからの基本だと思う。勉強もそうだし何でもそうだと思う。そういう目で私は見ている。

山屋委員：ありがとうございます。その通りだと思います。

会　長：はい、湯本委員。

湯本㈠委員：これから順次、お聞きするんですが今、866 名。これは一年から六年まであるんですが、一クラスの人数は分りますか。

山屋委員：だいたい学年によっても差があるんですけれども、多い学年が 150 ちょっとです。五クラスで。少ない学年が四クラスで 128 名とか。

湯本㈠委員：一クラスは何人ですか。

山屋委員：一クラスはだいたい 32、3 人です。平均して。

湯本㈠委員：はい。ありがとうございます。

会　長：各学校の教育基本統計みたいなものが資料としてはどこかにありますし。事務局の方、そういう資料って。

事務局：一クラスの人数はちょっと出していなかったんですが。

会　長：そうですか。

事務局：一学年の人数はお出ししました。

会　長：そうですか。そういうことです。他にいかがでしょうか。今日はこのテーマで三校にお話をいただいて、いろいろ具体的なお話もということで進めてまいりたいと思います。山屋先生、何か補足をされることとかありますか。もしあれば。

山屋委員：はい。ありがとうございます。今、古川さんからご指摘いただいたところ、学校でも是非、そういった育ちを願っておりますので。

古川委員：特にそこの方を注目して見ていますので。

山屋委員：ありがとうございます。

湯本㈠委員：いいですか。今、真ん中の「みがく」というところに、姉妹学級交流というのがあるんですが、これはどのように取り組んでいらっしゃるのか。

山屋委員：はい。中野小学校では、毎年、大きな学年の括りとしては、一年生と六年生、二年生と五年生、三年生と四年生が姉妹学年というような間柄をもっておりまして、その学年、２つの学年でのつながりを大事にしていこうと。さらに姉妹学級はその中で各学級ごと、例えば一年一組と六年一組が姉妹学級ということで。具体的に言いますと、一年生の年度当初のスタート時の清掃活動がありますが、六年生の子どもたちが行って、一緒に行ったりしています。あと、朝の体育集会などは、全校、各学年毎に分かれて行う場合は、一緒に行いまして、大縄跳びをやったり、ゲームをやったり、一緒にレクリエーションをやったりとそんな活動をしています。あと、日頃の読書活動でも六年の子どもたちが一年生のところに行って読み聞かせをしてやったり、そんなことで、各学年、今、ほんの一例なんですけれども、日頃の一貫の中で、その学年、学級同志が一緒に学習をして交流を深めていこうということで、年間を通して取り組んでおります。

湯本㈠委員：いいですか。今、なぜこんな質問をしたかといいますと、どこの学校もそうだと思うのですが、今、孫３人を家で育てているんですけれども、笛とかマット類など、その学年でしか使わないものが、その学年にきた時に買わなきゃならない。そういった物は無駄というか。なんとか学校に残しておけないのかなというような気持ちがありまして。今、姉妹学級交流というのがあったんで、そういったこともあるのかなと思って、お聞きしたんですが。そういったこととは全然違ったものなんですね。はい。分りました。

会　長：はい。ありがとうございました。あとで三校の報告が終わった後にまとめて時間があ

る程度残るでしょうから、また改めてその時に指名していただいて、議論することもできるかと思います。それでは、次に中野小に続いて、日野小の山岸先生、宜しくお願いします。

山岸委員：日野小学校でございます。グランドデザインとカラーで写真が載っております資料を配らせていただきました。宜しくお願い致します。両方併せてご覧下さい。まず資料の方に１・２・３ＧＯ！とあります。これは本年度の本校の運動会テーマです。開校123年目を迎える日野小学校、本年の児童数は123名でございます。今年は、この123の集団を意識しながら、ならではの教育に鋭くスポットを当ててきました。しかしながら、中野小学校のように800人を超えれば、800人ならではの学びがあり、10人であれば10人ならではの教育があるのですから、特別なことではないと考えております。つまり、ならではの中身を何にするかが学校の特色であると考えています。そこで、本校の特色、追い求めてきた子どもの姿を説明させていただきます。資料の方、まず、日野地区の特色を１から４のように考えています。伝統文化、学びの歴史、読み書き・そろばん、自然環境や産業、身近な教育施設、そこで本校の授業を次のようにみとっています。グランドデザインの右上、資料の２に入りますが、よく小さな規模の学校の研究レポートなどを読むと、素直で与えられたことについてはよく取り組むが、自主性に欠けるとか、自己表現が苦手であるという言葉、記載を見る訳ですが、果たして本当にそうだろうかと考えた時に、当てはまる部分はあるにしても、そうありきとしてスタートすることはあってはならないというふうに考えます。本校の児童を見ておりますと、下級生に対する上級生の面倒見が非常によい。また、縦の遊びができる。２番目に学びの成果や喜びや感動を伝えることができる。３番目に工夫したり、アイディアを提供したりなど、発信言いかえれば表現することの醍醐味を味わい、共有出来始めているのかな。こんな気持ちもしております。最後の資料２の点ですが、「なかよし」これは本年度、入学式の式辞にも入れさせていただいた内容でありますが、人権感覚をいっそう磨き上げようとする流れの中で、育ってきた良さの受け止めというふうに考えております。これら良さを受け、グランドデザインの上の方、太字にありますような人間性豊かでたくましく学力向上を目指す子どもの姿を追ってきました。縦の流れで目を追っていただきたいと思います。資料の方の３番のところから同じような内容でありますけれどもご覧下さい。学校目標「学びあい、響きあい、きたえあい」新指導学習要領のところで打ち出してきております「知・徳・体」であります。どの学校もほぼ同じような大きなテーマを設定していると思います。その中で本校では、以下の枠にあるような姿を求めて重点化してきています。まず、学びあいではできた、わかったという確かな学力が身に付く。そのために学び方が分かり、習慣を身に付ける。やがては、将来、学び続ける力となり、それが生きる力につながる。こんなことを願っております。豊かに生き抜くためのベースは学びに有り。その基盤を創っていきたい。また、保護者・地域の方には学びの応援団となっていただけることを

願っております。そこで 123 人ならではの授業に取り組んでまいりました。グランドデザインの左下をご覧ください。ワンエキス授業であります。聞き慣れない言葉ですが、本校独自で取り組んでまいりました。少し紹介をいたしますと、国語の授業では机の上に全員必ず辞書を置く。言語活動を重視した新学習指導要領に一歩近づくための手立てです。資料の方、左下の写真をご覧下さい。そのための職員研修を全職員で行っております。この写真は、一つのグループの例ですが、コンパクトな研修は数多く重ねております。また、図工では晋平記念館、間山温泉など、児童の作品を発信してきました。来週からはオランチェにも展示の予定でおります。また、２番目の四角です。手立ての２番目です。家庭学習の手引きを作成致しました。テレビを消して、同じ時間に同じ場所で学ぶ。筆箱の中には余分なものは入れない。こんな小さな提案からさせていただいている家庭学習ですが、親子で音読を進めたり、歴史問題を楽しむようになったりなどなど、学びの応援団が増えてきていることに気付きます。また、この提案は中学校ブロックに発信しているところです。資料の方の右下の写真はチャレンジ学習です。日常的に算数の問題を掲示しておくと、子どもたちはすぐに飛びつきます。こんな積み重ねが自主への橋渡しになればと考えるところです。子どもたち、明日は漢字検定です。かなり大勢の子がチャレンジいたします。その次に響きあいになります。補助資料は裏に入ります。四角の中、中山晋平先生の歴史を継承する歌づくり、心を伝え合える児童の育成を目指しています。また、日野から発信された歌が、地域を超えた広がりを見せていくことを心の中では願っています。地域の歴史から探る人権教育への取り組みや親子で考える人権教育を通して自他を愛する心、自他の命を大切に考えることのできる児童の育成を目指しております。そのために、本校では晋平先生の歌が、廊下から聞こえてくる学校であります。写真にありますように、音楽会のオペレッタを病院や福祉施設、公民館で発表することで、子どもたちにとって大きな力と自信を得てきている。こんなふうに思います。人権教育では毎日、仲間のキラリを発見しよう、伝えようという活動をしています。歴史あるなかよしカルタを親子で大切にしていることや南部集会所に足を運びながら心を育てていただいています。本校は部落差別学習を四年生から行い、そのカリキュラムを南宮中学校ブロックに目下提案しているところです。この縦の強固な流れができることを願っております。そこに写真にもあります全校の前での賞賛は、児童にとって自信となり、賞を得なくとも日常のささいな出来事に目を配り、心の育ちを期待しているというところであります。最後にきたえあい。40,000ｋｍをみんなで走ろう。こんなことを今、行っています。本校のマラソンへの取り組みは、非常に伝統がございます。毎日、行うことにより体力向上を図るとともに、仲間との達成感を体得する。そして忍耐強くやり抜く心の育成は、低学年からしっかりと身に付けさせたい。清掃を通しては、己としっかり向き合う心を鍛えたい。こんなことを願っています。一番最後のところに書かしていただきました全児童を全職員の手で 123 人ならではの教育を合言葉に豊かな心と学

力の向上を目指してきている中、学校教育目標の学びあい、響きあい、きたえあい。この三つのあいは仲間のあいと同時に、地域の方々とのあいであるということに改めて気付きます。先ほど申し上げました家庭学習でも、また子どもの姿を発信して返ってくるエールの中にもそんなことを感じます。地域の中の学校と家庭、この接点が一つひとつ増え、点から線に、また線から面になりつつあることにさらに夢が膨らんでおります。先ほど委員長先生の方から将来どうなっていくのかというところでありますが、この面、つまり面とは本校で言うとあい、中野小学校さんで言うとつながり、こんなふうに思います。グランドデザインに戻っていただいて、真ん中の下の方に書かせていただいたこの学校づくりをあいの中で願いながらつとめていきたいと思っております。春には本校にシャクヤクの花が沢山届きました。花を見て子どもたちは足を止めます。ささいな出来事ではありますけれど、その出来事の中に地域の方の力また、子どもたちの心の育ちが見えるような気がしております。以上です。

会　長：はい。ありがとうございました。さて、いかがでしょう。何かご質問。はい、古川委員。

古川委員：123 人ならではの教育。これが将来大きくメインになると思うんです。今、おっしゃったように晋平の歌も、学校も生徒を中心に歌え、歌えという運動をさかんにやった。最初はなかなか。ようやく最近、大分良くなって。私の方には健康まつりがある。その時に、小学校の生徒が歌って。この間、生徒がようやく歌って、ここへ参加したんですが。そういう良い傾向が出ている。今日、朝歩いたら、子どもの方からおはようと挨拶をした。123 人ならではの教育をますます進めていってもらいたい。宜しくお願いします。

会　長：日野小は古川さんの地元ですか。

古川委員：はい。そうです。

会　長：はい。ありがとうございました。他にいかがでしょう。

古川委員：この今のオペレッタ。よくぞあそこまでやってくれた。大したものだと思う。私の子どもが小学校で六年間同じ席だった。徹底的に水泳を訓練すると、みんな良い水泳選手になる。そうではなくて、違うクラスになると全然ダメである。相当先生の力がこれからますます強くなる。経験上そう思います。

会　長：山岸先生、教えて下さい。ワンエキスというのは英語なんですか。一個のエキス、ワンエキスということですか。

山岸委員：本当はワンエッセンスなんです。来年どうしましょうかということで、先生方と話をしていてやっぱり単級の学校であるため、教科のつながりをつけなければいけないということで、ちょっとエッセンスが欲しいねというのを、私がエキスと捉えそれがいいということで、ワンエキスに致しました。

会　長：はい。ありがとうございました。いかがでしょう。

湯本(一)委員：今、中野小学校と日野小学校の先生方がいらっしゃる訳ですが、これは一クラス 20

人だからできることですか。それは30人ではできないことですか。

山岸委員：30人でもできるというふうに考えておりますが、本校は低学年が16人～18人、高学年でも25人前後でありますので、例えばですよ、理科を一つ例に挙げると、一人一実験というのはかなり深く、しっかりできるかなという環境に今はあるのかなと思っています。

会　長：はい。その他はいかがでしょうか。山岸先生、何か補足でもあれば。宜しいですか。それでは平岡小の上原先生お願いします。

上原委員：平岡小学校の上原と申します。宜しくお願いします。今回、学校の現状をというお話があった時に、私なりきの受け止めですけど、将来に渡って中野市の子どもたちをどのように育てていきたいのか。そのための適正規模や適正配置をどう考えていったらいいのかということを、これから皆さんと一緒に考えていく時に、現在、学校が何を目指してどういう子どもを育てようとして取り組んでいるのか、どのように取り組んでいるのか。そういうことをここでお話をさせていただくことがまず、現状をお話するという中ではこの審議会において大事なことかなというふうに受け止めております。そこでどちらかと言うとグランドデザインの中では、こういう子どもを目指して、どういう手立てや方法でそれに近づいているのかというようなものが入っておりますけれども、将来の中野市の子どもたちをこうしたいという話につながるように、どちらかと言えばどういう子どもを目指しているのかということを、少し重きをおいて触れさせていただいてあります。それでは、平岡小学校のグランドデザイン、９ページでありますが、それと今日、お配りしました補足資料等をご覧いただきたいと思います。平岡小学校は現在244名、250名前後であります。学級数は一クラスの学年がちょっとありますが、二クラスの学校であると。クラスの人数については二クラスでありますとだいたい20人ぐらいです。一クラスになりますと33人とか多くなりますけれど。そんな規模であります。グランドデザインのまず、学校目標でありますけれども、プリントの方をご覧下さい。平岡小学校はちょっと特色がありまして花と笑顔とたくましさという象徴的なもので表現しております。これは一つは子どもたちの言葉から作ってきているということがあります。それから小学生にも親しみやすい誰もがすぐに口に言える目標の言葉でありますが、それを大人の立場で、少し噛み砕いて考えてみますと、花というのは本来、一人ひとりが持っているその子らしさが花であります。それを咲かせること。言葉を換えれば明るく元気な子どもということになります。補助資料にもありますように、その子らしさを伸ばして、気力に満ちた元気な子どもを描いております。育てたいというふうに考えております。笑顔でありますが、これは人と人が関わった時に出てくる表情ですので、人と人との関わりの中で望ましい姿を象徴しているというふうに受け止めております。人を大切にし、人と協力し合うことを目指していく訳ですが、プリントにありますように、お互いを認め合い、支え合う場づくりを通して、思いやりの心を学んで、友達と協力し合い願いを実現していくと

ともに地域の人々や自然を愛する心豊かな子どもに育てたいということであります。三つ目がたくましさでありますが、これは心と体、両方のたくましさを意味しています。自ら考え、力いっぱい活動する子どもの姿を目指す訳ですが、自分の思いや見方考え方を大切にすると共に、体力の増進に努め、粘り強く自分の課題に向かって意欲的に追及する実践力のある子どもを目指している。これが、花と笑顔とたくましさの中身であります。目指す姿であります。最初にもお話しましたように、これが子どもたちに日常的に使われていくようにという願いでこのような表現をしている訳ですが、昨日、次年度の児童会の役員選挙がありまして、候補者の立会演説会があったんですけれども、どの候補者も自分なりきに考えた花、笑顔、たくましさを語りながら、こういう児童会を作っていきたいというような話をしておりました。ありがたいことだなというふうに受け止めておりました。補足資料のその下に表がありますが、今年度の重点目標としては、楽しい授業、楽しい人間関係、楽しい活動ということを挙げております。その中身は花と笑顔とたくましさとのマトリックスになっていると申しますか、私たちが今年目指していることを三つと関連させて位置づけてみると、そういうことを今年は特に重点にして取り組んでいると。楽しいという言葉が繰り返されている訳ですけれども、これは目指す学校像としまして、どの子も毎日、喜び勇んでやってくるような学校をつくりたい。そういう願いから子どもたちにとって楽しい場であって欲しいし、楽しいというものを追及して欲しい。授業であっても友達関係であっても活動であってもということです。願いが込められています。これがグランドデザインの上半分であります。下の少し細かいところは、これらを具現する場をどう考えているのか、あるいはその手立てをどう考えているのかというようなことが具体的に挙げております。今日はそっちの方は、ご覧いただいてあまり触れませんけれども、もう一つグランドデザインの下の方を見ていただきたいんですけれども、やはり、すみません、具体的な手立てといいますか、そのすぐ下には教職員集団ということがボックスで入っておりますけれど、学校というところは、子どもと教職員で成り立っています。子どもに望ましい姿を求めて同時に、やはり学校というところは先生方もこうなりたいと言いますか、こういうところを目指したいというものがやはりないと。子どもも教師も共に育っていく、そういう場であるというふうに思います。両方がいきいきしていないとやはり楽しい学校にならないということで。グランドデザインの中には、子どもを語ると同時に先生方もこうあって欲しいなということが語られていると思います。ですから、ちょっと脱線するんですが、これから適正規模や適正配置を考える時にも、望ましいな、育てたいなと期待する子ども像と同時に先生方が専門性を発揮して力量を伸ばしながら活動できると言いますか、そういう学校の適正なものは何かということも、共に考えていかなければならないのではないかなと思います。すみません、ちょっと脱線しましたが。それでは一番下のところ。これもとかく、ここにもあると思いますけれど、先ほどから中野小、日野小でもお話しいただきました

横のつながり、学校の中に閉じこもるのではなくて、いろいろなものと連携しながら目指す子ども像を実現させていくということで、大事にされているのが、家庭、地域との連携ということと、もう一つは幼保小中の教育機関の縦のつながりと言いますか、そういうものが非常に重要視されています。本校も下の方に家庭・地域とのつながりのことそれから、幼保小中の連携によるつながりのことを挙げております。このようにしてグランドデザインというのは、目指す学校像というのがあって、その中にそれを支えている子どもたちはこういうふうに育って欲しい、先生方はこうやって育って欲しい。そして、それには、家庭、地域やそれから他の学校と一緒に手をつなぎながら進めていきたい。こういう像が描かれているというふうに読んでいただければ、どの学校であってもだいたいそれが含まれていると思いますのでご理解いただきやすいのではないかと思います。私の方、最後になりましたので、私が言うことでもないのですけれども、今、グランドデザインの構造の話をさせていただいたので、これをどの学校も作るにあたって、その背景になっているものについても若干、生意気なんですけれども触れさせていただきたいと思うんです。一つは中野小や日野小のお話の中のように子どもたちの実態、家庭の願い、保護者の願いですね。それから、地域の様子、伝統や文化そういうものを当然、把握した上でグランドデザインには反映され、目指す子ども像というのが出てくる訳ですけれども、もう一方で、どの学校もある程度共通しているということにはお気付きだと思うんですけれども、そんなに大きく変わってこない。それはどういうことかというと、補足資料の裏をご覧いただきたいのですけれども、グランドデザインを私たちが作成するその背景というのは変な言い方かも知れませんが、根拠となっているものがやはりある訳です。一番は最初にあったように、教育基本法の第一条の教育の目的というところにある人格の完成を目指したものであるということ。それから現在、小学校では平成 21 年から新しい学習指導要領が適用されておりますけれど、現在の学習指導要領の基本理念としては、生きる力ということが挙げられております。これはお聞きになったことがあると思いますが。生きる力というのは、地・徳・体のバランスのとれた力と言い換えることができると思いますが、中身としては、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力が挙げられております。それを実現していくために、学習指導要領で言えばこういうことを今回、重点に挙げているんです。と言いますのは、（3）なんですが、これはどちらかと言うと、まさに平成 20 年代と言いますか、現在、何が課題なのか、何を目指していかなければいけないのかという、現代的な課題と言いますか、現在、目の前にある課題と言いますか、そういうものが色濃く反映されていると思います。思考力、判断力、表現力の育成、伝統や文化についての理解を深めていくこと、道徳教育の充実、健やかな体の育成、理数の力の育成、外国語教育の充実、体験活動の充実それから環境教育、家庭に関する教育、食育、消費者教育、情報教育、特別支援教育。こういうものが目の前にある今の子どもたちにとって必要な教育内容。そして、それらを支えるものとして

今度の学習指導要領でも家庭・地域との連携によって育んでいく生きる力、家庭で考えなければいけない生きる力、地域で考えなければいけない生きる力についても触れております。それは、どちらかと言えば国で示してきている教育の目的と言いますか、目標と言いますか、そういうものだということです。長野県もそれに近い形で、教育振興計画のところでは知・徳・体が調和し、社会的に自立した人間の育成という言葉で目指す子どもを表現しております。現在、長野県教育委員会ではこの三つの柱でそれぞれの学校が特色を持ちながらも、この三つ、分かる授業、魅力ある教育課程、楽しい学校というものを柱にして学校づくりをするようにと考えております。それから、先ほどもちょっと触れられましたが、中野市教育委員会の願いというのもずっと考えられてきて、本年度から一つの言葉として位置づけるようになりましたので、学校によってそれがグランドデザインにきちっと位置づいている学校も出ていますけれども、中野市教育委員会としては「ひと・もの・こと」と関わりながら、学び合い、支え合い、未来を切り拓くたくましい子どもという言葉で表現しておられます。学びあいとか、支え合いというのは、確かな学力だとか豊かな人間性、そういうものをさしていますので、未来を切り拓くというところが大変、中野市教育委員会のねがいとしては特色のある言葉かなというふうに思いますが、実は未来を拓くというのは、今度の新しい学習指導要領の中にも登場してきますので、ちょっと引用しておきました。文科省の示した学習指導要領の中の未来を拓くというのが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性のある日本人の育成という表現のところに出てまいります。ここの我が国という言葉を中野市に置き換えますと、中野市教育委員会が願っているものが、少し重なって分りやすく見えてくるのではないかなと思います。ちょっと難しい、固い表現で沢山、点でつないでおりますので、分かりにくい文章ですけれども、大事なことがこれに入っていると思います。学習指導要領でも、家庭と地域の連携によって育む横のつながりみたいなものを大事にしなさいと。それから中野市の教育委員会でも、そういう横のつながりと同時に縦のつながり、幼保小中高までの子どもたちが育っていくものをつないでいこうじゃないかということを今、取り組んでいます。それが現在のところは、中学校ブロックごとに教育力向上プランというものを作り初めて、そして、できるところから始めようというふうに考えています。ですので、例えば先ほど言った中野小、日野小の場合には南宮中ブロックになりますので、一つはキャリア教育について、連携をどうしていったらいいのか、小学校で目指すキャリア教育、中学校で実際に行っているキャリア教育をどうつなげていったらいいのか。こんなことを今、研究しております。もう一つは家庭学級を取り上げてくださっていて、子どもたちの学習

習慣と言いますか、それを家庭と連携しながら定着させていくにはどうしたらいいだろうかというのを研究し、また、実践してもらっています。私のところは高社中ブロックなんですけれども、体力づくりですとか人間関係づくりをテーマに取り組んでいますが、この人間関係づくりのところでは、やや規模の問題と関わってくるところがあって、みんなどの学校もこういう背景の上に、目指す子ども像に向けてやっていくんだけれども、なかなか場づくりとしてちょっと人数が少ないような。もっと大勢の中で力をつけたいぞという願いがあるので、では高社中ブロックで共有化して、何か今できることを考えていこうじゃないかというのが高社中ブロックだと思うんです。ですので、具体的には、まだ、大したことはないんですけれども、４つの小学校の六年生の交流会というのを今年から始めました。二回、今年度、実施したんですけれども、一回目は人間関係づくりということで、ちょっとゲーム的な、自己紹介的なものと、それを英語でやるという場面も入れてやりました。二回目は各小学校をバラバラにした小グループを作って、クイズや問題を解きながらゴールしていくという、そのようなグル―プ活動。いろんな学校の子どもたちが一緒にやるという場面をつくって交流会をやりました。これと同じような発想のことがもうすでに中野市では、小学校六年の合同音楽会が、全部の小学校の六年生を集め４つに割って、100 人ちょっとの集団で合唱をつくると。そういう機会にしています。それから豊田中ブロックでは、学校行事を小学校二校で一緒にやっていて、それはやはり中学校ブロックごとに特色はちょっとあるんですけれども、目指しているものはここに共通しているということです。若干長くなりましたが、少しグランドデザインの目指しているものの背景みたいなものをお話させていただいて、最後に実は、大きな 800 人を超える学校も 100 人や 100 人を切る学校も目指すものってそんなに変わらないんです。明るく、強く、むつまじくだとか私どものように花と笑顔とたくましさだとか変わらない。変わらない理由は、先ほどお話した中にあったと思いますが、そうすると、どの人数の規模であっても実は目指しているものは同じ。そこには今度は具体的にどうやっていったらいいのかという工夫がそれぞれの学校にあるんだと思いますし、ひょっとしたら困難点や課題がそこにあるのかも知れません。そういうところも今後、詰めていっていただきながら議論が進んでいけばいいなというふうに思っております。少し余計なことも付け加えましたが、以上です。宜しくお願いします。

会　長：はい。ありがとうございました。今後のこの審議会の重要なポイントにも関わるお話を最後のところでご指摘いただいたような気がしますが。どうでしょう。今の平岡小の説明に対して、質問とか。

古川委員：地域の先生と生徒の他に、平岡において地域で学校教育に関わってくださる方というのは。

上原委員：よろしいでしょうか。ありがとうございます。学校教育に関わってくださる方ということで。まず、一つはりんごとかぶどうづくりの本場ですので、子どもたちはりんご

畑に行って、りんごづくりの名人と言われるいわゆる農家の方にずっと春からお世話になっている学年が。毎年やらしていただいております。ぶどうについては毎年ではないんですが。具体的な名前を出しますと、たかやしろワイナリーというのがありますので、ジャムづくりをあそこでやっています。今日もりんごジャムを作っておりましたけれども、そこにはたかやしろワイナリーから何人かの方に来ていただいて、地元の果物をということでいちごから始まって、桃も作りましたし、今回はりんごという、そんなことをさせていただいております。それからクラブ活動には、できるだけ地域の方に講師に入っていただくということで、ゲートボール、ダンス、料理など、ちょっと全部挙げられないですが、そういったものには、地域の方が講師として入っていただいております。その他に、今、大会には出なくなっちゃったんですが、自転車と交通ルールの学習ですね。これも大事にしておりますので、そこにはいろんな形で指導員の方にも関わっていただいております。確かにもっともっと人材発掘をしながら、人材バンクを作ってより多くの方と一緒に子どもたちに接していきたいなと思っています。おっしゃるとおり人材も沢山いらっしゃるので、協力いただいているところであります。

古川委員：たかやしろワイナリーへ行くとすごいオーラを感じる。ぶどうの匂いもするが、人間のオーラを感じる。特徴あると思う。

会　長：さて、他にいかがでしょう。こちらの２人が、かなり先ほどから意見を出されていますけど。その他の委員の方、いかがですか。どうぞ。

小林委員：失礼します。倭小ＰＴＡの小林です。ちょっと話が脱線するかも知れませんけれども、ＰＴＡ新聞というのが定期的に配られておりまして、その中で私が非常に気になって感銘を受けた文章があります。この紹介を踏まえて皆さんのご意見をいただきたいと思います。北九州市白銀中学校、高度成長期には1,000名が在籍する大規模な学校でしたが、少子化などの影響による減少で、現在、80名を切る北九州市でももっとも小規模な中学校です。生徒数は少ない中学校ではありますが、子どもたちの団結力や情熱には目を見張るところがあり、そのエピソードを皆様にご紹介したいと思います。今年３月、29名の子どもたちが白銀中学校を卒業しました。卒業式の後、近くの公園で先生と子どもたちで思い思いに記念写真をしていました。その中には、別の中学校でいじめられ転校してきた女の子の姿もありました。そのお母さんが、みんなと名残惜しそうに記念撮影をしている子どもたちの姿を見て、この中学校に出会えてよかった、この友達と出会えてよかったと涙ながらおっしゃっていたそうです。９月の体育祭でこんなこともありました。例年、組み体操で六重のピラミッドを作るのが伝統です。大人でもかなり難易度の高い競技になります。今年は三度挑戦をしましたが、あと一歩のところで完成することができませんでした。体育祭終了後、子どもたちは先生に詰め寄り、もう一度だけチャンスを下さいとお願いしました。そして最後の挑戦。やっぱり無理でした。体力のことも考え、これ以上の挑戦は諦めました。競技をして

いた男子生徒、周りで応援していた女子生徒はもちろん、先生、終了後も残って見ていた父兄まで泣いていました。悔しかったでしょう。残念だったでしょう。でも、その子たちの心には一生友達と頑張ったこの記憶が、貴重な体験が残るはずです。いかがですか。生徒数が少ないからこそ、皆一人ひとりが主役にならないといけない。お互いに認め合わなければいけない。当然、学校の先生の熱心なご指導があったからですが、この素晴らしい経験のできる中学校を一回是非、見学にいらしてください。これが一文です。ちょっとすみません。私ども倭小学校の現在の 24 年度の生徒の一年生から六年生までの人数は 61 名になります。来年度は六年生も含めて、一年生は９人しか入ってきませんので、53 名になります。私の子がいる今 24 年度、五年生は 10 名なんですけれども、このたった 10 名であって、それぞれの地区から通っています。通うグループとすれば、朝いるところで３人、いないところで１人というところもあるんですが、この２人、３人の中でも、たった３人の中でもいじめ、喧嘩等をしながら学校へ登校する訳ですが、学校へ登校したら、やはり子どもたちは頭がいいんですね。先生の顔を見るんです。笑顔で先生に対応するんです。それはなかなか見せないんです。子どもたちはそれを知っています。私は子どもから聞いてそれを初めて知りました。だから学校の先生にそのことを話したことがあります。知りませんと。皆さん仲がいい、小規模だから仲がいい学校なんですと思っていましたと。私、初めて知りましたと。ですから多分、先生方も見えない部分で、子どもたちの影の部分が少なからずあるのではないかなと思っております。たったこの少ない人数である学校でさえこんなこともありますが、常時そういうのがあるのではなくて、やはり小規模、先ほど紹介しました文章にあるように、やはりその中でやっていかなければいけないというお互いの気持ちがあるから、例えば、グループに分けて、あのグループとは交えない、そういうつながりは作る訳にはいかないという小規模であるからいいといったところもあって、いじめの極たるものである登校拒否が起こる状況もあると思うんですけれども、私は上の子どもから、これからもまた上がってきますけれども、10 年間見てまして 100 人から現在、数十名になってだんだん減ってきている訳ですけれども、10 年間一人も登校拒否というのは出ませんでした。残念ながら先ほど言われました高社中４区になって、倭小学校出身の者が保健室登校であったり、皆さんと交えなくてという状況が生まれてしまったことも事実です。これは小規模だから大規模に入った、大きなグループに入った時に馴染めなくなってしまった。または、経験が少なかったから起きてしまったことなのかというところも踏まえて、それでは大規模、中野小学校、平岡小学校さんの中では年度を踏まえて、実際のところ登校拒否の子とかいじめの状況とかがあるのかどうか。あるのであれば、適正規模審議会の中では、将来、そういった状況を減らすために、どのような規模が適正なのかというところを追いこんでいけば多少目安になるのではないかと思って、ご意見を承りたいと思いますけれども。

会　長：はい。小林委員、実は次回のこの審議会の会議の内容で今、おっしゃられたような一言でいうと少子化に伴う課題、学校の現場、学校教育全体の問題を取り上げたグループ討議、ワークショップという。そういうものを会長としては想定していたんですけれども。今日、そういうお話に踏み込んでいくよりも、今日のお話を踏まえて、もう一度整理していただいて。問題提起というかお話をいただければいいんではないかと思うんですが。

小林委員：ありがとうございます。もちろんそれで結構でございます。

会　長：すいません。お話の腰を折る形になりましたけれども。でも、おっしゃられたこと、そして今、紹介された北九州ですか、ＰＴＡ新聞のエピソードや話なんかもおそらくかなり重なってくることだろうなと思いますので、是非、次回の審議会でと思っておりますが。次回どうするか、この後、またご相談を改めてしますので。そこへ持っていかせていただきたいと思います。どうでしょう。折角、三校の方からそれぞれのグランドデザインそしてそれに関わる話題を提供していただいたので、それに直接関わるご意見や質問等ありませんか。

小島委員：すみません。質問させていただきたいと思います。中野小学校の方から中野市の方の教育委員会で提唱しております早寝・早起き・朝ごはんについて中野小学校から報告があったんですけれども、他の学校ではどんなふうにそこら辺のところを考えていらっしゃるのか、ちょっとお聞きしたいと思いますが。お願い致します。

会　長：それではお願いできますか。中野小以外の。まず日野小の方から。

山岸委員：はい。グランドデザインの下のところに中野市教育委員会が目指す子ども像、そこに書かさせていただいています。早寝・早起き・朝ごはんのところは出てないんですが、プラス１のところの本校は家庭学習というふうに位置づけています。

会　長：平岡小いかがでしょう。

上原委員：早寝・早起き・朝ごはんにつきましては、全国運動なんですね。県でもパンフレットを家庭に配っています。本校ではそれにあわせてＰＴＡとの場で話題にしていただいているところだと、保健の先生を中心に生活リズムを調査する中で、早寝・早起きのデーター等についても取りながら、呼びかけをしていくと。これは家庭生活の問題ですので、何かルールを作るのではなくて呼びかけが今のところ中心になっています。本校はプラス１については、今、ＰＴＡと一緒に考えていますが、今年は挨拶をすることで地域と一緒に取り組んでおります。そんな状況ですが。

会　長：上原先生でも構わないのですけれども教えて下さい。このプラス１という取り組みの中で、どういうものをテーマにするかというのは、中野小は早寝・早起き・朝ごはんだ、基本的習慣だというお話だったんですけれども、これは各校で自由に決められることなんですか。

上原委員：これは教育委員会の生涯学習課の方からプラス１運動、要するに早寝・早起き・朝ごはんは全国運動でもうあるので、中野市はそれにもう１つプラス１をつけよう。その

プラス１を誰がどういうところで決め出していくか。中野市中で一つにするのかといういろんな議論があったんですけれども、現在のところは各学校単位、もっと言えば学級単位でもいいんではないかというぐらいに、プラス１を何にするかというのは、今まだ固まっていないところなんですね。

会　長：各学校の自由裁量で考えてということですか。

上原委員：はい。学校といいますか、地域でもいいのではないか。要するにその主体をどうするかということは。要するに何を選ぶかということではなくて、誰がみんなでそうやって合言葉にして取り組んでいくかということも大事ではないかということです。

会　長：小島委員、宜しいでしょうか。

小島委員：はい。

会　長：それでは北原委員、お願いします。

北原委員：すみません。お三人の先生方の素晴らしい話を聞かせていただきありがとうございました。内容も大変素晴らしいグランドデザインで、初めて認識しまして、今後の進め方においても大変役に立つと思っております。しかしながら、山屋先生のところはそれぞれ一年から六年各学級ごとの表が書いてありますけれども、他の学校は一年生から六年生までで一緒くたになっているので、なかなか難しいのかなと。要するに最近言われているのは保護者とかＰＴＡ、世の中どちらかと言うと、文科省あたりもそうですが、教育を中心にして例えば、飛び級だとか週６日制にしろだとか、どちらかと言うと先生方がおっしゃった人格的な教育以上にこのような方向で世の中推移している感じもないではないんですが。その辺で父兄との要望、要するに意見と今回のグランドデザインとのギャップみたいのがあるのかないのか、あるいはそういったことが意識されて、充分に盛り込まれて。中にはそういう内容も。山岸先生のところは若干触れられておりますけれども、その辺があるのかどうか。お伺いしたいなと思いました。

会　長：私なりに今のご意見を解釈すると、親、保護者からの教育を重視、成果を重視するような動きに対して、グランドデザインの中にどういうふうに位置づけされているのかと。はい。いかがでしょう。三校でもいいし、今日、宮入先生も下川先生も来ていただいてますので。いかがですか。

山岸委員：本校では、まず重点行動目標のところを学校教育目標からかなり具体的に今年はおろしてきました。具体的な成果をまた保護者の方に出していく中で、またご意見をいただくと。こういう形にしてきた一年目かなというふうに私、自分なりに考えております。なので、その行き来をする中で、評価をいただく中で詰めていくといったような状況に今あると考えてます。

会　長：他の学校いかがでしょう。

下川委員：中野平中学校のグランドデザインを見ていただくと、教科学習の創造、授業作りを中心にやっていこうということで、これでもう五年目が終わるということになるんです

けれども、本校の場合は、これを中心据えた経緯というのは、７、８年、もう少し前ですかね、非常に荒れた学校、授業が成立しないというような学校の中で、時には保護者の方に監視をするというか、子どもたちを見てもらうために、沢山の保護者の人に協力いただいて入ってもらったりというような学校の中で、いろいろ例えば、行事を充実させようとかいろいろなものがあったとは思うんですけれども、やっぱり一番長い時間が教科学習、授業だからそれを頑張ってやろうということで、今は学びあいという学びの共同体研究の仲間に入れていただいてやっているということで、グランドデザインを中心にきていますが、今の保護者の方のグランドデザインにどういうふうな反応というかですね。ということになると保護者というひと括りというのは、学校には私は存在しないという感じがするんですね。やはりうんと勉強をやってくださいと。部活や行事には労力を割かないでうんと勉強をやらしてくださいという親御さんもいますし、勉強はそこそこでいいからもっと部活動に時間が取れるように、極端に言えばテスト前の部活休みもなくていいよという親御さんから、いや、三日では少ないから一週間は休みにしてくださいという親御さんもいますので、このことに関して、保護者の一つの意見という形でひと括りにはやはりできないのかなと。昔という言い方は変なんですけれども、多様化しているというんですかね、いろんな価値観を持っている保護者がやっぱり多いですし、主張もされますし、そういうことは感じてはいます。

会　長：今、ひと括りにはできないとおっしゃったのは保護者の総意として捉えることが難しいということですね。

下川委員：そうです。

会　長：何かご意見はありますか。

北原委員：今、おっしゃったように、確かに保護者の方が多様化されているのは事実だと思いますけど、ただそれを全然、無視をする訳にはいかないと思う。それをいかに、学校のマネージメントとでも言いますか、そういった意味ではどの辺を照準にして、どの辺の意見を中心にしてやっていったらいいのかと。そういうところは非常に大きな課題というか問題なのかなと。大変ご苦労されている点ではないかなという気は致しますけれども。

会　長：他に。どうぞ。

上原委員：先ほど山屋先生もおっしゃっていたんですけれども、今、どこの学校も年に一回あるいは二回ぐらいはこのグランドデザインを含めた学校評価ということを保護者からもアンケートを取ったりしていますので。それで、およその傾向といいますか、学校重点目標についてはどうであるかということのおよその傾向も出ますし、ご意見を具体的に書かれた方もいますので、そういうところで受け止めて、やはり学校で考えたグランドデザインに反映させていく。やはり方向は違うな、保護者は違う方向を考えておられるなということであれば、その部分で改良していくということはやっておりま

すけれども。

宮入委員：南宮中学校では、毎年、学校評価というものをやって保護者の意見を伺うようにしているんですが、例えば、学校は勉強をしっかりと教えていると思いますかというような、授業は集中して子どもは受けていると思いますかというような項目がずっと。特に自分の子どもに問題を感じていない、危機意識をあまり持っていないという保護者が大部分だと思うんですけれども、いじめられているとか、成績が良くないとかあるいは生徒指導上いろいろ問題があるとかそういうお子さん以外はほとんどは学校はだいたいいいだろうというふうに考えておられて、だいたい学校でやっていることは良いと。だから３分の２以上は７割か８割はそちらの方だと。やはりうんと問題にされるのは、自分のお子さんが問題に直面した時、学校はいったいどういうふうにお子さんに、心を寄せてくれていたのだろうかというふうになると、やはりそれは必至の問題になりますので、その時に学校評価というのは非常に厳しくなります。良くても悪くても非常に厳しいお役目が出てくるかなと思います。そういうことを考えていった時に、今、中野平からもありましたけれどもいろんな親御さんがいらっしゃるんですけれども、やっぱりことが起きた時には親の願いというのは出てきますので、どの学校でもいじめられないし、自分の子どもが学校の集団の中に認められて育っていく学校になってもらいたいという願いは共通にあるんではないかなと。普段何もなければ親はそういったことはおっしゃいませんけれども、そういうものを常に感じて学校に目を向けておられるんではないかなというふうに思います。特別勉強がどうのこうのとか、一部の親はあったり、スポーツがどうのこうのという親もありますけれども、あるいはこんなのはやってくれるなというそういう親もありますけれども、そういう中で学校教育の実践というのはどこにあるのか、部活をやりすぎない部活。そういうのを模索しながらやっているんですが、なかなか説明が非常に難しいんですけど。いろいろ非難されるところもあります。ただ学校は一番大事にしたいことはやはり授業で、授業が六時間ですからその授業の中で落ち着いた集中できる安定した生活をしたいというそれは一番したいところです。そうするといろんな学校で研究してますけれども、その授業が落ち着いてただ安心できるだけではなくて、もう一個問われるのは学力向上ですので成果が上がらなければいけない。どういった学習をしていくのが一番いいのかなということを、常に職員が研究していかなければならない。今、いろいろ出ているのが、授業の中で学びあいというそういった一つのイメージを大事にしていこうと。これは何かというと、もう少し分析すると友達同士あるいは先生もそうですけれど、関わりあうあるいは外部の地域の方も含めて関わりあいのあるそういう関係がある授業。あるいは関わりあいの一部分でもいいんですけれどもそういうものを設定できる授業。そしてその中に一人ひとりの学びの深まりが見られる授業。これが学びあいだと思うんですけれども。そういうものを目指してやっているところです。それを保護者にグランドデザインとか授業参観とか懇談会などで説明しているところ

ですが、魅力がないのか授業参観日も中学生になると 30 数人の子どもたちの中で、10 人ぐらいしか来てくれないというのが実情で、まだまだアピールが足りないというか、中学としては残念なところです。以上です。

会　長：はい。ありがとうございました。どうぞ。

山屋委員：中野小学校なんですけれども、先ほど申し上げましたやはりグランドデザインとかいろんな願いはどうしても学校などの一方通行になっては絶対いけないと思います。いつも保護者の方から適に学校に対する要望とか意見を聞いていかなければならないし、私、日々感じているのは大変保護者、地域の方たちはとても厳しい目で、当然だと思うんですが、見ていらっしゃると思います。中野小学校で昨年 10 月に学校評価アンケートというのをやりまして、今月 22 日に家庭へ配布しました。伊藤さんのお宅へも届いていると思うんですが、全部で９項目についてアンケートを行いまして、それぞれ４つの大変よい、よい、やや不十分、不十分ということで回答をいただきました。提出いただいたのは全部で 793 人で全体の 92%だったんですけれども、やはりこれを見ると、とても学校としても改善したい、考えていかなければいけない点が多々あります。例えば９つのアンケート内容なんですが、お子様は楽しく学校へ登校していますかというようなところからずっと学校職員はお子さんの話を聞いたり、相談に乗ったりしてくれていますかという質問があったり、学級懇談会は担任の方針、児童の様子、保護者の意見などを聞き合う情報交換の場となりましたか、そんなようなことであります。例えば、先ほど申した学校職員はお子さんの話を聞いたり、相談に乗ったりしてくれていますかという質問に対して、大変よいが 37%、よいが 54%、やや不十分が７%、不十分が１%ということで、大変よいとよいを合わせて 91%となっています。これについては、昨年が 85%だったんです。是非、これについては、私たち職員が、いつもここのところを大事に考えていかなければいけないということで取り組んで、自画自賛になってしまうかも知れませんが６%伸びたと。ここは一つ成果といえるのではないかと。ただし、８%の方がやや不十分とか不十分というふうに見ていらっしゃる方がいられると。ここはやはり謙虚に受け止めていかなければいけないし具体的な方法とかをことあるごとに個別懇談会、学級懇談会等で説明していかなければいけないなというふうに思っています。そういった点から９つのアンケート結果について分析しています。あと、もう一つ選ぶ以外に記述式でどんな点でもいいから学校に対する意見、要望、文句なんでもいいから書いてくれということでやりました。中野小学校では、去年までは無記名でやってたんですが、今年から記名にしました。なぜかというと目の前の子どもたちを一緒に育てていきたい。同じ立場でやっぱり考えていきたいし、学校も意見等を寄せていただいた方に責任を持って答えていきたい。それにはお名前をハッキリと書いて、お互いに責任をもってやっていこうじゃないかということでやりました。そうしたところ全体の印象なんですが、大変今までと比べてとても建設的と言いますか、私たちもこういうふうに見ていきたいと思うので、学

校も是非こういうふうにやってくれとか、そういう今までより一歩踏み込んだ意見を出していただきました。それはとってもありがたかったなと。以上です。

会　長：はい。ありがとうございました。そろそろ予定の時間が近づいてきているんですが。はい。どうぞ。柴垣さん。

柴垣委員：各小学校よりとても興味深くお聞きしました。感じたことは子どもたちがとても大事にされているということと、それぞれの学校の取り組みが、それぞれ昨日、今日に始まったことではなくて、きっと姉妹学級にしても一年生の時にこうされたのが、六年生の時にこうしてあげたという、順送りに継続性があって初めて定着するシステムだと思うんですよね。そういう意味でそれぞれの工夫が長年に渡って、学校や先生や地域の中に蓄積され、定着されているんだと感じました。今、私たちはここで学校の統廃合について議論している訳ですけれども、私たちがそういうところに手をつけようとしているんだという責任の重さみたいなものを改めて感じました。ただ単に人数がどうだとか機械的には決める訳にはいかない問題がここには沢山含まれているんだろうなというふうに思いました。グランドデザインを読んで、聞いてて、どうしてもきれいごとの文章になっているところは多々感じるんですけれども、それでも山岸さんや山屋さんや上原さんのそれぞれの個性もはしばしに感じられて、とても感激しました。最後は付け足しなんですが、上原さんが最後にグランドデザインを作るということはどういうことかという総論について解説していただいて、こういう教育を全体的な視点から見ていく視点というのは、とても大事な報告だったと思うんですけれども。ちょっと違和感があったので発言させていただくんですけれども、目指すものは変わらない。それは指導要領なんかに出ていると。私は目指すものは大した意味のあるものではないと思うんですね。例えば中野市の教育目標で未来を切り拓くというところにアンダーラインが引いてあるんですけれども、これは美辞麗句で内容の全くないフレーズだと思うんですね。むしろ指導要領なんていうのは一回決まったら何年もそのままいく訳ですけれども、きっと学校や子どもたちの状況というのは、山屋先生も言われたように半年で変わっていく訳で、具体的なものに対応していくことが。そういう中でどういう工夫を現実的にしていくかということが大事で、目指すものは変わらないというのをあまり強調することは、ちょっと比重として違うだろうという違和感を個人的には持ちました。私が受けてきた小学校の教育を思い起こすと、ずっと今の子どもたちの方が手厚い大事にされた内容のある取り組みをされているんだというふうに感じて聞いていました。以上です。

会　長：はい。ありがとうございました。もう一方ぐらい時間がありますが。いかがでしょう。

湯本㈠委員：今、上原先生のお話を聞いて、科野と同じようなことをやっているなと。本当に感心しました。科野でもぶどうづくり、りんごづくり、稲づくりは各学年でやっておりますし、花づくりの方も各学年でやっております。できれば中野市全体で中野市教育委員会がある訳ですから、それを共有してもらいたい。グランドデザインを個別にバラ

バラやるのではなくて、中野市の小学校は全部同じようなグランドデザインを持っていただければいいんじゃないかなと。今、先ほども言いましたように早寝・早起き・朝ごはん、これは科野小学校でもプリントが来ています。うちには六年と二年と来入児があるんですが、なかなか言うことを聞かずに困っているんですが、これは中野市の小学校全部の共通した問題ということになりはしないのかなと思うんです。そういったことは横の連絡を十分にとっていただいて、やっていただきたいなというふうに思うのが一点、それから先ほどからしつこく私が申し上げているのは、クラスは何人ですか、何クラスですか、多人数ではできないんですかということを申しました。今、小林委員さんの方からは九州の学級のことも出ましたけれども、一番肝心なことは、先生ではなくて子どもたちをどのようにもっていくかということが一番大事なことで、３人だからできたけれども 30 人じゃできない、逆に 30 人だからできたけれども８人だからできないという場面も多々あると思うんです。そういったことを先生方はどのようにお考えになっていらっしゃるのか。その辺をこのグランドデザインという中に盛り込んでいただければというふうな考えも思っております。最後に一言だけお願いしたいんですが、この前にいただいた資料にこの問題とはちょっとかけ離れますけれども、中野市の教育予算が 160 億円あるんですが、ここに出ているのは１億４千万円しか出ていません。それでお聞かせいただきたいのは、各小学校、中学校の経費、年間経費を是非、お知らせいただかなければ、今後、進めていく場合において非常にいろんな問題が出てくるんではないかなと。倭小学校の人数は 56 人で経費がいくらかかったのか。それから中野小学校は 866 人で経費はどれくらいかかっているんだというようなことをお知らせいただける範囲内で結構ですが。これはおそらく先生の給料は県職でございますので、県から出ると思いますが。そのようなことも次回、もしできましたらお願い申し上げたい訳です。時間がございませんので、ちょっと急ぎますが、中学校では必須に武道がありますが、武道の授業の方はどのようなことになっておられるのか。その点も次回、お聞かせいただければというふうに思っております。あと、申し上げたいことがいっぱいあるのですが、一応そんなところで。

会　長：中野市への質問ということで、各項目、教育予算ということで。事務局宜しいですか。

事務局：はい。ちょっといいですか。経費はそれぞれの学校で出ますが、例えばコンピューターを各学校に導入しているんですが、それは単年度に中野市全体はできませんので、五年間に割り振って学校ずつでやっておりますので、その学校がたまたまその年に当たった時にはたぶんその予算は増えると思います。それからプールの浄化槽の交換ですとかあれは年次計画でやっていますので、その年に当たったところは伸びます。そういうことを加味しないとちょっと出てきた数値をそのまま人数で割るということとなると、ちょっと乱暴な数字になってしまいますのでその辺はどうしたらいいですか。

湯本㈠委員：今、いただいた資料の中に教育予算が 168 億ですか。いや 16 億ですか。この資料はおそらく総務文教の方の委員会へ出す資料だと思うんですが。ここには含まれていな

いようなものも山田家や笠倉発掘調査とかが出ていますが、これらを全部足したってとても16億にはならないですよね。今、教育次長がいいましたエアコンの設置がいくらだとか、トイレの洋式がいくらだとか。これは分かります。分りますけれども総体の維持管理費を。

事務局：はい。維持管理費というのはどの部分までのことを言っていらっしゃるのか分からないのですけれども、例えばエアコンにしても一時に中野市ではできませんので、15校を４つぐらいのグループに分けてやっておりますので、当たらない学校はその分はないし、当たっている学校はその分は多いし、そういうことでありますので、出しますけれどもただ人数で割ると乱暴な数字になってしまいますよということでご承知おきいただければ出します。

会　長：湯本さんどうでしょう。私なんかも実際に文教予算というのが、どんなふうな仕組みで立てて、どこへどういった形でおりていくのかということが良く分かっていないので、事務局の資料で判断していただいて、こういうものがあるけどどうだろうかというふうに、次回、もし間に合えば提示していただいてということで。いかがでしょう。

事務局：はい。一年間の実績みたいなものがありますので、ちょっとそれをお示ししてご意見をいただければと思います。グランドデザインについてはいいですかね。

会　長：グランドデザインについては。

事務局：ご意見を伺っておけばよろしいですか。

会　長：宜しいですよね。

湯本㈠委員：意見として共通して持っていただければどうかなと。

会　長：おそらく共通する部分はもちろんあって、でも全部同じグランドデザインであれば、そんなの用意する必要はなくなっちゃうんで。各校で。市がその辺に掲げていれば済む話になっちゃうから、それはきっと共通する部分、ここは重点的に中野市でやりましょうかということで、上から降りてくるものというのはきっとあるだろうと思うんです。それは教育目標としてありますよね。そのレベルを超えて個別に各校も共通にという話でしょうか。

湯本㈠委員：そうです。今、平岡小学校の話と日野小学校の話を聞きましたけど、中野小学校は街だからおそらくできないことの方が多いと思うんだけれども、その中でもって同じようなことを言っているんだけれども何か違うなということが、読んでも感じてくるんです。そういったものはどういうふうに。

会　長：おそらく同じようなことを言っているというのは共通の理念。そのレベルでは同じだけれどもわが校はこういう方法でやるということで、個別の目標とか方法とかやり方とかというのはきっと出てくるだろうと思うんですけれども。おそらくあまり違ったご意見ではなくて、湯本さんのおっしゃってることはきっとお分かりだろうと思うんですが。残念、ちょっと時間が来てしまいましたので、それを意見として受け取り、そして、もし次回、その話題をまたということであれば、意見を交えたりしたいなと

思いますが。もう一点ご質問ですかね。中学校の必修科目の武道はどういうふうになっているかという。これは今日、中学校お二方来ていらっしゃるので。

下川委員：必修科になっておりますので、４校とも行っていることは確かです。本校は柔道ですし、南宮は剣道ですかね。

湯本(一)委員：指導者は何人ですか。

下川委員：南宮の剣道には入っていないですかね。柔道、本校の場合は通常の体育の中での武道は必修ですので、30 人一クラスに１名ですが、一年生と二年生の一部の授業には外部の指導者をお願いして入ってもらっています。ほとんどボランティアという形ですけれども。

湯本(一)委員：全部有段者ですよね。怪我をした時はどうなりますか。ボランティアで指導をしていただいているということですが。

下川委員：指導は入っていただいておりますが、あくまでもサポートに入っていただくという立場ですので、怪我等があった場合の責任問題はそこにいる正規の教員の責任というふうになります。

会　長：はい。どうもありがとうございました。さて予定の時刻を過ぎました。今回の会議の予定は学校教育の現状ということでグランドデザインをお話いただくということが一番のメインでした。どうしても今日、取り上げて欲しいということがもしあれば。もう時間がないですけれども。一応お聞きしますが。その他というところで。

（２）その他

柴垣委員：質問の回答は次回にしますか。

会　長：具体的にいくつか質問は出てきてメモはしたんですけれども。そうですね。次回しかないですね。それでは、事務局の方で議事録を確認した上で、今日のご説明に対する質問に対して、次回、回答をお願いする。意見に対する再質問ということがあるかと思いますがそれで宜しいですかね。

湯本(美)委員：すみません。次回でいいんですけど、幼稚園や保育園はみんな定員があるんですけれども、小中学校というのはそれぞれの学校であるんですか。

会　長：入学定員の話ですか。

湯本(美)委員：それぞれの規模に対する小中学校の定員というのはないんですか。

会　長：大きくなり過ぎるからどこかへということはありえないという。ないということですね。

事務局：いいですか。教育委員会で通学区を決めておりますので、中野小学校であれば、中野小学校の通学区を決めておりますので、そこにいらっしゃる住民の方はそこへ行っていただくようになりますけれども。ただ一か所ですかね、調整区はとっておりますが、ほとんどそういうような理解でいいと思うんですが。

会　長：おそらく定員という言葉の使い方だろうと思うんですけれど、一学級の定員というの

はありますよね。これを上回らないようにとか。それで、上回らないようにするために、入学を拒否するのかということではなくてという。はい。宜しいですかね。あとは。どうぞ。

髙木委員：前回のことを受けて総合計画を提出していただいたと思うんですけれども、見た感じではいろいろな取り組みをしているなと思ったのですが、前回、私が言ったように少子化対策についてはなかったような。もちろん子育て支援だとか、子どもを生み育てやすい街づくりにするとかという取り組みは、広義な意味では少子化対策になるとは思うんですが、具体的にそういった対策はどういったものをされているのかなというのを見たかったなとは思っています。それは次回でも構わないとは思うんですけれど、中野市が、中野市自体が今、全国的にある少子化というものを、全国的にあるから中野市にあってもしょうがないよねと思っているのか、本当に危機感を感じて食い止めたいと、少子化というもの食い止めようと思ってて、子どもを増やそうと思っているのかどうかという、どちらなのかなというのを知りたかったし。すみません、全然話が変わってしまって申し訳ないんですけれども。これをすぐに回答していただくというのは、大変難しいことだとは思うんですけれど。また、今後どういうふうに考えているというのを提示するのは大変難しいとは思うんですけれども。少なくとも会議に参加されている皆さんは、学校の統廃合もそうなんですけれども、大前提として少子化ということをそれぞれの立場で、それぞれの観点から中野市の少子化を食い止めるためにどういう策を講じたらいいのかということをどこかに念頭に置きながら話し合いを進められたらいいなと思いますので、是非宜しくお願いします。

会　長：ありがとうございました。それは次回、私の立場でどうでしょうと提案させていただきたいなと思っています。ちょうどよかったと思います。少子化を本当に食い止められるかどうかは分らないんですけれども、少子化も進んで高齢化とセットで入っているんだろうと思うんですけれども、それに対して中野市が学校あるいは学校教育の中でどんなふうに考えたらいいのかということをテーマに、次回、是非、いろんな意見を戦わせるというか出していただければいいかなと思うんですが、そうは言ってもこれだけの人数でやりとりをするのは、ちょっとあまり効率の良くないことだと思いますので、グループに分けて。

古川委員：会長。これだけエンジンがかかったのだからグループではなく全体討議を。

会　長：グループではなくとおっしゃられましたけど、みんな一緒にワイワイやっていいものかというと、実は前回はグループに分けた形でということで、ご了解をいただいたんです。ですので、まずやってみたらどうですか。やってみて、そんなのはやってられないというのであれば、またみんなでということになるかも知れませんが。是非、このあいだ、前年ですけれど、二つか三つくらいのグループで。ワークショップという言い方をしますけど、分かれて少子化時代の中野市の学校教育のあり方を考えるということで。それも大きなテーマですから、さてどういう切り口をということはグルー

プで決めていただいて、話をするということで、次回いかがでしょうか。会長の方から提案させていただきたいのですけれども。

湯本(一)委員：いいですか。どういうふうに分けるんですか。

会　長：ある程度それぞれの立場を代表してここに集まってもらっていますから、こちらであみだくじではないですが、決めたものを提案させていただいてそれでどうでしょう。ここへ座っていただけますかということで。いいですか。

湯本(一)委員：従います。

会　長：ありがとうございます。そうしましたら次回、申しましたテーマで議論、話し合いの後、まとめて我々のグループはこんな話し合いをして、一応こんな結論が出たとか全然結論が出なかったとかという発表を話し合いの後やっていただくということで。予定二時間。宜しいでしょうか。それでは、今日とっても私、お話を聞いてて、なんていうかワクワクしました。普段あまり聞かないですよね。私も校長職をやっていますけれども、なかなか学校のグランドデザインなんてあまり。大変だよなこれを実現していくのはという思いを。そうだよねという納得することが沢山あったのでとってもありがたいと思います。中野市には15校あるということを私も頭の中に入れましたけれども、15校全部のグランドデザインを今日、本当はお聞きしたかったんですが、資料がありますので、次回までに今日、配布した資料に目を通していただく。それから意見をいただきましたけれども、冊子を見ていただいて少子化というキーワードが見つかるでしょうから、是非、熟読していただいて次回、参加していただければと思います。

副会長：最後にひと言申し上げて終わりにさせていただきます。本日は本当に中野市の今の子どもたちをどうするか、みんなでどのような子どもたちを育てていくか。一番根本に関わることは熱っぽく語っていただきました。三校の先生方、本当に分かりやすくご説明いただいてありがとうございました。自校の子どもたちの姿を深く見つめ、願いをかけ、教育目的を設定され、そして目標に向かって具体的にこういうふうに進んでいっているんだというところ。非常に分かりやすくお話しいただいて、それを聞いて、子どもへの愛情、願いそして先生方の学校に取り組んでおられる熱っぽさというか、そういうものが感動的に伝わってまいりました。そして我々、本審議会の位置を講評させていただいたように思います。そして、これから話をしていく一つの切り口と言いますか、進むべき方向というものをしっかりと掴めたのではないかと思いました。グランドデザインについてありがとうございました。それから上原先生のお話にもありましたけれど、学校目標、子どもの背景ですね。ともに変わる訳ですけれども。国の動きというか、公教育になって今年で141年ですか。今年で。そこまでの間の国の動きというようなものに対して、無関心であってはいけないように思います。そんなことをしっかりと勉強されているんだという受け止めを私は持ちました。四回、今の子どもをどう産み育てるかという一番根本に関わる教育の理念というか目的ですね。

それが四回変わっているのは皆さん、ご存じだと思いますが。つい忙しさに紛れて。つい最近 18 年に一回変わっているんですね。明治５年の太政官布告から始まって、明治 23 年の勅語、昭和 22 年の教育基本法、そしてすぐまた変わって 18 年。今の内閣総理大臣の時に変えたんですね。どのように変わったか。知らないうちにじわりじわりと学校の中に入っているんですよね。知っててやるのと知らないでやるのとは全然違うようなことで。私たちもこの任に当たっている人間として、委員として、やっぱり勉強することも大事だなというようなことも私、個人的に思いました。ご熱心にご討議いただいて本当に充実した第３回目の会議をもつことができました。以上をもちまして終了とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

事務局：髙木委員さんが言われた中野市は少子化をどのようにするんだというのを、この冊子の基本構想、基本計画の第３章のところで、こうやって子どもたちを育てていくんだよというところから読み出していただくということで。宜しくお願いします。

４　その他

会　長：次回、２月８日に同じ時間にここで行います。

◎第４回中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会

日時：平成 25 年２月８日（金）午後３時

場所：中野市豊田支所２階 大会議室

５　閉　会（17:15）